

2022 年度外部授業評価

改善案

【企業】

# A 初年次

初年次教育課程連絡委員会 委員長 水野真由美・教務部教務課

内部質保証の推進として実施している外部授業評価について、初年次教育課程では、ここ数年間の実績に基づいて、【企業編アンケート分析】【これまでの改善方策】【今後の課題】を報告する。

教育課程については、専門教育領域への意見が多く、初年次教育課程については、これまでの要望と 2022 年度の要望を整理している。

## 【アンケート分析】

《企業からの要望》 「⇒」は「教授している科目」又は「教授の可能性を持つ科目」を示す。

- ・仮説に取り組む姿勢 課題を見つける力 行動する力 ⇒ 「学修基礎」
- ・オリジナルな強みを持つ ・価値観の違う人たちとの付き合い方 ・好奇心をもつ
- ・時事問題についての知識レベルの向上 ・コミュニケーション力 「報連相」を身に着ける ・対人力を身に着ける ・主体性の育成 ・プレゼン力の向上 ・チーム力の育成 ⇒ 「社会人基礎」
- ・消費者の購買行動 ⇒ 「化学」
- ・PC スキル (エクセル、ワード)、ソフトスキルの向上 ⇒ 「情報演習」
- ・マネジメント知識 ・ビジネス基礎 ⇒ 「ファッションビジネス概論」
- ・課外活動、アルバイトの推奨 ⇒ 「学修基礎」

(その他)

- ・初年次教育課程の科目編成については要求はない。むしろバランスよく編成されていると評価が高い。他にも十分な内容である。特に問題ないとコメントを頂いている。
- ・「社会人基礎 A」「社会人基礎 B」は就職活動を踏まえて 2 年生の必修にしてはどうか。

## 【これまでの改善方策 (要望に応えた事項)】

- ・コミュニケーション能力の育成 ⇒ 「社会人基礎」を平成 27 年に開講した。  
講義のみならずワークショップ、ディスカッションを多く取り入れた参加型の授業を行っている。
- ・消費者の購買行動 ⇒ 令和元年に「化学」の担当者を変更して、実際の複数回授業で商品サンプルを提示したり、外部専門家による最新情報を提供している。
- ・SNS 系授業の設定 ・WEB マーケティングについて ⇒ 令和 3 年度から「学修基礎」の内容に情報リテラシーの内容を取り入れた。
- ・仮説に取り組む姿勢 課題を見つける力 行動する力の育成  
⇒今後「社会貢献プログラム」の設置を検討している。

## 【今後の課題】

- ・上記の期待項目について、授業担当者に確実に伝えて行く。また高い評価を受けている授業についても情報を伝える。
- ・各授業担当者は、改めて「外部評価アンケート回答」に目を通し、期待内容について把握し、授業改善の参考とする。
- ・「学修基礎」では、アカデミックスキル、ソーシャルスキル、スチューデントスキルの習得を目指してオムニバス形式で授業運営をしている。令和3年度から、企業の要望に応え情報リテラシーの内容を取り入れた。今後、ソーシャルスキルの習得内容など、企業からの意見を参考にし、教員間で内容の改善を検討して行く。
- ・「社会人基礎」は、以前からの要望であるコミュニケーション能力の育成に応え、平成27年に開講した科目である。職場や社会で多様な人々と関わっていくために必要な基礎能力を理解し修得することを目的としている。スピーチ力、自己表現力を修得も目指している。就職活動を踏まえて2年生の必修にしてはどうかという回答もあるので、履修時期についての検討が必要である。
- ・「情報演習」ではPCスキル、officeソフトの基本スキルを身に着けるだけでなく、情報モラルを理解し、日常生活に活かす事ができるようにしている。担当教員へ改めて「外部評価アンケート回答」に目を通し、引き続き、授業改善の参考としていくよう要請する。
- ・「ファッションビジネス概論」は、ファッションビジネスの基本知識を獲得することを目標に授業を実施している。2年次以降、各自の専門分野で活用できることが必要となることを、学生へ理解させていく。

## B 専門課程

### ① モードクリエーションコース

コース主任 北折 貴子

**2 年次：**前期制作作品をグループで大学祭に向け展示する作業を行っている。異なるデザインコンセプトを一つのブランドにし、顧客への紹介などアイディアを出し合い、冊子にまとめ、発表する。この経験により、他者の良い部分を見つけ、自分には何が欠けているか、そこをどの様に伸ばしたら良いか、気が付くきっかけに繋がっている。リサーチも何をポイントに比較するか明確にすることで、調べるだけでなく、調べたことにより何が分かったか、何が考えられるか、考察力も身につくようにしていきたい。変化に敏感で柔軟に対応できる力、自ら考え行動するチャレンジ精神も必要であるとの回答には共感できる。

改善案は、2年次で制作した作品を発表するだけでなく、振り返りの蓄積のためにデザイン画・縮小パターン・コンセプト等のプレゼン資料をポートフォリオにまとめる予定です。現在は3年次に東京コレクションのデザイナーにポートフォリオについてのワークショップを行っていますが、2年次でも自身でブランドを行っている卒業生の協力で、ポートフォリオ作りに入力していきます。「仕事に正解はない（ひとつではない）」について、「作り方」に重視した授業になっていますが、「テキストを観てその通りに作業を行う」基礎をしっかりと学ぶためには大事なことだと思います。それは「やり方はそれだけ（テキストが正解）」と頭を固くしてしまうことに共通するかと思えます。ただし、作り方はそれだけではない（オートクチュール、オーダーのような丁寧な作り方のほかに簡単に量産的な作り方なども「ある」ということも伝えていく。

**3・4 年次：**多くの企業が「コミュニケーション能力」「仕事に取り組む姿勢」「課題を解決する能力、行動力」「説明能力」「主体性」「協調性」「柔軟性」などを重要視していることが分かる。これらの項目は、学生個々の能力の差が明確に現れる部分であり、学生を指導するにあたり、日々ジレンマを感じる人が多いところである。企業にとって現在の本学の学び（専門の知識や技術）に関しては一定のレベルを満たしていると評価していただいていることがうかがえるのであれば、今後は人間力の向上を目指すことが重要であると考えます。

改善案として、授業において学生個々の作品制作を主としながらグループによる調査や制作の機会を増やし、教員や学生間のディスカッションを通して、各自の考えを明確に「言語化」する機会を増やす。ディスカッションや完成作品のプレゼンテーションなどを積極的に行うことにより、他者に対する説明能力とコミュニケーション能力など、社会から求められている多くの能力の向上を図ることができるのではないかと考える。

また意欲のある3,4年生を対象としてデザイナー養成特別強化ゼミ（無単位の自主ゼミ）が設置されている。このゼミはコース内のクラスや科目という枠を超えた学びを行うことができると考えている。ゼミでは卒業生デザイナーの協力を得て、オリジナルデザイン発想から自分のブランド立ち上げまでを一貫して学び、制作した物を外部で成果発表や販売することを企画している。このことにより自己満足でない社会での成果による外部評価を受けることができ、今後のデザイナーとしてブランド立ち上げに向けて実践的な教育を目指していく予定である。またコンテストに向けてデザイン画表現を研究し、意欲的に外部コンテストにも参加していく予定です。

## ② インダストリアルパターンコース

コース主任 住野 雅子

### 改善案

「人体工学設計技術ⅠⅡ」では、従来の工業ボディを使用するだけでは応用に関して問題があるため、今後は体型別に JIS サイズを利用してパターン化し、学生本人のサイズの設定から、原型作り、補正（規格外サイズへの対応）の後、縫製工程に進めるというプロセスを学習する。

昨年度は、パターン教育は理論が多く文章から理解させる教育であった。それでは学生は人体の図だけなので、立体と数値の理解が出来ない問題があった。そこで改善後は、3次元計測のボディをデジタル化し、人体の可視化を行う。それにより文章から読解するだけでなく、画像から視覚的な感覚と連動し、より深い人体への理解を深めることが可能となる。

人体と衣服の空隙量にともなう理論展開に関して、図形だけでは理解することが難しく実物を見せて説明することで理解を深める予定である。また素材やシルエットによるゆとりの違いを学び、理解させていくようにしていく予定である。これにより、デザインごとのゆとりやシルエットの考え方を習得できるように改善していく。

### ③ テキスタイルデザインコース

コース主任 田口 雅子

学生が身につけるべき資質・能力について様々挙げていただいた中から、重要視した点は下記になります。

- ・コミュニケーション力として、挨拶、報連相
- ・ネットで得られるような表面的な情報による研究は不要
- ・提案する意図や目的が不明瞭
- ・プレゼン力UP と自身の魅力や個性を伝える方法
- ・自分の強みを理解する

これまで、課題が自己の中（課題としてつくることが目的）で終わる傾向があり、その改善として各授業での課題や産学連携など、プレゼンテーションで考えを他者に伝える機会を増やしました。以前より、考えを整理し人前で話すことは慣れてきたようですが、相手を意識した「対話」が今後の課題だと感じます。

例えば3年生後期で行っているコース内コンクールでは課題である制作について、学生が課題の目的をどう理解し、どのようにテーマを決め解決していくのか、プロセスごとに面談をし、自分の考えを伝えてもらうようにしています。テーマに対し、調査や準備を行い、実際に制作し、プレゼンテーションを行い外部評価員に審査していただいています。終了後は情報収集などこの課題をどのように行い、どのような結果が得られ、また改善があるかをまとめてもらうようにし、自分で気が付くことを取り入れることにしています。コミュニケーション力については、複数者との対話が必要です。大学祭での作品発表の企画で役割を決めて行うこと、課題レポートの共著を行っていますが、学生同士の繋がりが希薄であったり、積極的な取り組みにまではできていないところも感じます。グループワークの実施などを今後取り入れ、学生同士の発言の場を増やし、互いを尊重しながら進行する経験を教員も積極的に関わりながら進めて行きたいと思えます。

- ・日常で「売れるもの・必要とされるもの」を作り出す視点が足りない
- ・発信力、提案力

こちらについてはテキスタイル業界で活躍されている現役の方を講師にお招きした授業で企画・提案等を行っていますが、その他の授業での課題に取り込み視野を広げられるよう今後考えていきたいと思えます。

##### ＜企業側からのご意見＞

学生が身につけるべき資質について、昨年に引き続き「コミュニケーション能力」に関することが多く挙げられていた。総合職・技術職・販売職など、職種ごとに求められている資質は異なっているものの、基礎的な社会人スキルを身につけていくことに「コミュニケーション能力」が重要であることをさらに考えさせられた。現場に出て聞き出す力、質問する力、相手が何を求めているのか等、想像力を働かせて動かなければならないことが求められている。社会に出てからは、チームで動くため、人に伝える能力・コミュニケーション能力は必ず仕事を行っていくためには重要なことである。

##### ＜現状＞

授業で作品に対して面談を行う時、言葉で伝えるコミュニケーションがとても難しいように感じられる。こちらの方から何度も質問をしないと、内容が理解し難いところがあり、全体像が見えない。会話が續かない学生の特徴として、人の話の腰を折ってしまう・笑顔が少なく愛想が悪い・人見知り・初対面の人と話すのが苦手・人の話に耳を傾けず、自分の話ばかりする・洞察力が弱く、相手の意思を汲み取れないなどというような状況である。

##### ＜今後に向けての改善案＞

これらの問題点を解決していくために、下記の内容を継続していきたいと思う。

##### ① グループワーク

グループワークは、コミュニケーションを取りながら、一つの目標に向かって作品を作り上げていかななくてはならない。協調性に加えて、他者と協力して課題を解決する経験を繰り返すことで、チームでの課題に向けて解決のプロセスを学ぶことができる。

産学連携のグループワーク（3年）、卒業制作Ⅱのグループワーク（4年）の2回をグループワークに充てている。中には、協力し合って何かを成し遂げることが、楽しくなっている学生も出てきている。上に掲げた問題が、グループワークによって改善される成果が少しずつではあるが見られる。今後さらに、グループワークというものを最大限に活用し、改善を図ってきたいと思う。

##### ② 作品を制作するための面談

互いの価値観や信頼関係を築いていくために、面談を多く取り入れていくことで、コミュニケーション能力を鍛えたいと考えている。

企業による外部評価において抽出されたポイントを整理すると以下の項目が重視される。指摘ポイントについて全体観を含めた現状と改善策を以下にまとめている。

- ① 実社会想定のコミュニケーション能力の醸成
- ② 自己表現・プレゼンテーション能力醸成
- ③ 実社会との接続性やアパレル体験
- ④ 自主性のある姿勢やチャレンジ精神
- ⑤ 産学連携を通じた協創教育の推進
- ⑥ デジタル対応力と PC スキル
- ⑦ 時代変化を読み取る力や SDG's 等の社会的命題に対する具体的な学習

以上7つのポイントについて、現在の授業内容におけるカバーリング範囲の確認と授業改善を行っていく。①、②、③、⑤については、「産学連携プロジェクト」を中心としたコース構成科目を通じたアクティブラーニングの機会や実企業との接続性も多く、相応の対応が出来ている。加えてプレゼンやコミュニケーション機会等を通じて既に多くの実施科目により広域にカバー出来ている。⑥についてはコースとしても更なる拡充の必要性を認識しており、現状の構成科目による対応に加えて「プレゼミ」及び「産学連携プロジェクト」を通じて具現化をはかっていきたい。⑦についても、「産学連携プロジェクト」を中心に、既に多くの構成科目にて対応しているが、時代を読み取る力の醸成については、一層の強化が必要であり、「ブランドマネジメント論」「プレゼミ」を通じて、授業内容の拡充をはかっていきたい。④については現状ではコースとして十分な対応が出来ていない。現在、「産学連携プロジェクト」にて自主性等の成長変化に対する効果測定を実施中であり、その結果を鑑みながら、具体的な方策を急ぎ検討していきたい。

本年度の外部評価で示された指摘項目については相応にカバー出来ている、あるいは改善進行中の項目が多く、改めてコースの目指す方向性との整合性を再確認出来るものである。一方で、それらの達成度については未だ十分なものとは言えない。今後はそれら成果の可視化をはかると共に、それぞれの内容の深化と効果測定を行う仕組み作りが必要である事を認識させるものである。

本年度の企業外部評価を総括すると「ファッションビジネス人としての基礎作り」の大切さが浮かび上がる。今後は実社会が希求するファッションビジネスの「基礎」について再考をはかり、問題点の抽出および改善を図っていきたい。いずれにせよファッションビジネスの領域は激変を続けており、常に授業改善の余地が存在している。今後も授業運営状況を注視しながら、時代変化やニーズ変化に遅滞なく反応し、本コースの教育リテラシーに内包していく事に注力していきたい。



## ⑥ ファッションビジネス・流通イノベーションコース     コース主任     五月女由紀子

企業様からいただいたご意見から、下記の内容が重視する点であると考えた。

### 1. 学生が身につけるべき資質・能力について

最も多いご意見として「コミュニケーション能力」次いで「積極性」「行動力」「幅広い興味関心」「PCスキル」であった。ビジネス系は講義系の授業が多いため、イノベーションコースでは、2年生最初の授業改善が肝心であると考えた。2年生は、まだ関心事が固まらない時期なので、プレゼミでは幅広い企業からの特別講義を実施しているのに加え、SNS運営を実際に行う。来年度は学生生活やファッションスタイルをInstagramとTikTokを使って、グループワークで発信して競わせることを計画している。3チームでの写真・動画の撮影と編集の共同作業を行うことでコミュニケーション能力を養う。3年ゼミでは、オリジナルTシャツをネットショップで販売を行うが、5チームでの商品企画・撮影・ネットショップ作り・販売まで行う。役割分担を決めて、チームで作り上げて結果を出すためにはディスカッションが必要であり、各自が担う責任の重要性を肌で感じ取らせ、実社会にも通用するように経験を積みさせていく。

### 2. 教育過程の編成と教育方法について

多数のご指摘から「売れる商品作りと販売する方法」「マーケティング」視点で教育を行うことが重要であると感じた。必修科目「ファッションマーケティング論」「消費者行動論Ⅰ・Ⅱ」は、ファッションとその周辺業界、身の回り品の企画から購買に特化する授業内容に目標を設定し意識を高める。次いで、3年「フィールドリサーチ実践論」で店舗運営がどのように行うかの実践リサーチレポートを作成することで、ファッションマーケットの組み立てについての知識を高める。今後は、複数のコース必修科目が繋がって相乗効果が出るように授業担当者との連携を強化することが必要であると考えた。

### 3. 入学者受け入れ

「その他」に、希望者が少なくなっている業界であり、高校向けに産学協同で啓蒙活動を行いたいというご意見があった。2年プレゼミで特別講義をしていただいているアパレル企業と共同で、来年度、高校生向けにファッションに特化したSNS発信を学生が制作するなど実現可能なことである。可能であるなら授業内で取り組んでいきたい。

### 4. 今後の人材に必要なこと

デジタルスキルの習得は各社から上がっているが、illustratorとPhotoshopは必須スキルである。「プレゼンテーション技法」「エディトリアルⅠ・Ⅱ」で得たスキルを「イノベーションゼミ」のネットショップ販売を行う中で、ショップページを実際に制作できるまで指導する。来年度は新たなECプラットフォームとの産学連携を計画中であり、WEBアクセス解析まで理解する事を目標とする。デジタルファッションやメタバースの世界は、CG用PCでの制作までは現段階では難しいが、4年「ファッションテック論」で知識を深め、「卒業論文」で今後の業界の方向性まで知見を広げて論ずるように指導をしていく。

## C 入学関係

入試広報課 部長 柴田 弘子

入学者受け入れについて

- \*今後のアパレルの人材育成に向けてどのような人材を受け入れるべきか
- \*そのための方策案について

今回の調査結果を読んで、企業が求める人材は、ファッションに対する熱意やこの業界への希望、楽しみをしっかりと持っている人材。またそれを育てることができる人材。アパレル業界に情熱や興味があり、「目まぐるしい社会情勢の変化にも柔軟に対応できる資質をもっている人。次世代にファッション・アパレル業界に変革を起こせるモチベーションが高い人材。等々かなり意識の高い人材を求めていると感じました。

入学者を受け入れる人材として求めるとしたら、とてもハードルが高いと感じます。むしろ入学後、アパレル企業に適した人材をどのように育てていくべきかとの点では、世の中の変化に対応できる力、情報発信力、プレゼン力、SNSは必須のようですので、大変参考になりました。

但し、将来アパレル企業が求める人材としての素養を持っているかの観点から入学者を受け入れ時点で、選抜試験内での課題や面接時の質問内容、或いは口頭試問の質問内容について今回の回答内容を参考に入試委員会等で検討して、次年度の学生募集に活かしたいと思います。